

藍住町中学生海外派遣事業 報告

藍住東中学校 教頭 佐藤 健志

本事業に参加した子ども達は、得るものが多く、自分や自分を取り巻く環境を振り返ることもできたと思います。10日間の日程で、オーストラリアの自然や文化を見て感じ、ホームステイをしながら現地の学校で学習しました。様々なプログラムが準備されており、豊かな体験活動を実施することができました。

限られた期間でしたが、子ども達には様々な変容が見られました。子ども達に大きな影響を与えた「ホームステイ」「現地の学校生活」「英語学習」について報告します。

1. ホームステイ

ホームステイ先は、シドニーから北に車で1時間30分ほどのゴスフォードという緑に囲まれた自然豊かな町でした。1家庭に2人ずつ、計6家庭に受け入れてもらいました。



子ども達は朝会うたびに、ホストファミリーとどう過ごしたか話してくれました。「一緒に買い物に行きました。」「釣りに行きました。」「ゆったりとティータイムを過ごしました。」など、ホストファミリーが温かく関わってくれているのを感じました。また、子ども達はホストファミリーが作ってくれたお弁当を持参し、登校しました。ランチボックスに入っていた「Have a great day!」（よい一日を!）というメッセージを、嬉しそうに見せてくれた子もいました。

日本とオーストラリアでは生活習慣の違いがありますが、互いに理解し合い、よい人間関係を築いていく素晴らしさを感じたと思います。お別れの際には、笑いあり涙ありで、この出会いが素晴らしいものであったのが伝わってきました。

2. 現地の学校生活

ゴスフォードにある「St Philip's Christian College Gosford」という小・中・高が一緒になっている学校に通いました。学校では、バディ(15～16歳)と呼ばれる先輩がお世話をしてくれました。

午前中は現地の先生による「英語レッスン」、午後は学校が計画してくれた「総合プログラム」に参加しました。バディの授業や他学年の授業に参加したり、食を通じた交流をしたりもしました。学校最終日の文化交流では、クイズを通して

日本や藍住町を知ってもらい、けん玉やお手玉、折り紙といった日本の遊びを紹介したり、阿波踊りを披露し、一緒に踊ったりしながら、親睦深めることができました。

笑顔であいさつを交わし、帰りには「See you tomorrow.」（また明日ね。）と気持ちを伝え合う日々の姿が、とても印象に残っています。



3. 英語学習

現在、日本の英語学習では、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能のうち、特に発信能力「話す」「書く」に課題があると言われています。

今回の研修で、子ども達の発信能力は、確実に成長しました。学校の授業は全て英語、家でも英語での会話、買い物や観光地でも英語でやりとりしました。こうした環境により、自分の考えや思いを伝え、相手のことを理解しようとするコミュニケーション能力が、大きく伸びました。そして、何よりコミュニケーションの大切さを感じたと思います。

今回のチャレンジをきっかけに、子ども達は英語学習への意欲が高まり、将来やってみたいことができたようです。国際感覚を培い、将来、国際的な視野をもって活躍することを願います。このような貴重な機会をいただいた、藍住町に感謝いたします。ありがとうございました。

